

# 巻頭特集



# 深川ギャザリアから 放送中!



## 紆余曲折を経た開局 見つけた79.2MHz

レインボータウンFMのルーツを辿ると、1981年の代官山人気コーヒーション「TWO AND HALF」に行き着きました。店内にミニFM局（放送免許のいらない微弱無線放送）を開局したのは現レインボータウンFM社長である小嶋映治さん。当時は話題となり、TVや雑誌にも取り上げられました。その経験もあり、小嶋さんはコミュニティFMの開局に動き出しました。1995年に発生した阪神淡路大震災ではボランティアとして現地に赴き、活動の中で現地のコミュニティFMが細かな災害情報を放送していたのを目の当たりにし、その重要性を再認識したそうです。そして、当時FM局の新規開設が

## 地域の中でのラジオの役割 人と人を繋げるラジオ

電波の混雑により難しい中、小嶋さんが独自に周波数の調査を重ね、空いていた周波数「79.2MHz」を見つけ出し、認可を得られたそうです。そしてとうとう2003年、レインボータウンFMが開局しました。当初は門前仲町の赤札堂の中にスタジオ構え「レインボータウンFM『大江戸放送局』』という名称でスタートしたのでした。当時のスタジオは公道に接しており、人気番組には公道にも多くの人が集まってくるという、警備の関係等から現在の深川ギャザリアに移転しました。



▲局長の木下 和則さん。自身も月～金曜12時から「Radio JUKEBOX」の番組に「DJキノポップ」としてパーソナリティを動めています。

から制度化された超短波放送局です。そのため、レインボータウンFMでも地域の情報提供や防災を目的としています。「コミュニティFMならではのリスナーとの近い距離感を大切にしているこの時代、「人と人が集える場所」「人が集まり、人を繋げるコミュニティ放送局」を目指しています。」と局長の木下さんは話します。

## 平時は身近なラジオ 緊急時は重要な情報源

時にはスタジオ前でプレゼントを渡す企画もあり、それを聞いていたり、スナークが朝からスタジオ前に訪れ、午前中に200個のプレゼントを配り終えてしまうということもあったそうです。また災害時においてもコミュニティFMならではの取り組みをしているいそうです。2011年の東日本大震災の時には、部屋を提供できるリスナーの声を集め、帰宅困難者とリスナーを繋げる役割を果たしました。



▲水曜18時の「ラジオこうとう」でパーソナリティを務める笹川真樹子さんは、区政情報から区内のイベント等を伝えます。お祭り会場から生中継したり、江東区長と対談をするなど、江東区とリスナーを繋いでいます。



▲レインボータウンFMのキャラクター「ソウル ジョージ」非公開ですが、実は家族がいるそうです。



コミュニティ FM 局「レインボータウン FM」は「見せるラジオ 魅せる FM」をコンセプトとし、深川ギャザリアにある木場スタジオでは大きな窓を設けて放送の様子を公開しています。聴取可能人口は江東区とその周辺で120万人をカバーし、江東区だけでも1万5000人以上が実際に聴いています。これはコミュニティ FM 局として最大級のリスナー数です。

レインボータウンエフエム放送株式会社  
本社 東京都江東区東陽5丁目15番8号  
周波数 79.2MHz  
ウェブ <http://792fm.com>

スタジオ 江東区木場1-5-9 (深川ギャザリア 北プラザ棟)  
可聴範囲 江東区および中央区、港区、千代田区、台東区、墨田区、江戸川区、品川区のそれぞれの一部地域  
公式ウェブサイトなどインターネット上でも配信